

施策番号 1-3-1	施策名 地域で支え合う福祉社会の実現	基本目標	誰もが健やかに生き生きと暮らせるまちづくり			
		政策名	健やかな暮らしと自立を支える福祉の充実			
	主管課	保健福祉課	課長名	有澤 勝昭	内線	550
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
年齢や世代、性別、障がいの有無に関わらず、地域全体がお互いに支え合える体制づくりをすすめます。		町民	住民同士で支え合う体制をつくる					住み慣れた地域で、安心した生活を送ることができる	
成果指標	説明	単位	23年度(策定時)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)	
① ボランティア活動に参加した町民の割合	住民意識調査	%	未調査	28.3	33.0	34.0	35.0	35.0	
② たすけあいチーム参加町内会数	社会福祉協議会調べ	箇所	35	33	33	41	43	43	
③ 住んでいる地域は、住民同士支え合う体制ができていると思う町民の割合	住民意識調査	%	52.6	49.1	48.4	62.0	65.0	65.0	
成果指標設定の考え方	①ボランティア活動への参加が増加することが、住民同士の支え合い体制の構築に繋がることから成果指標に設定。(段階的に35%を目指す) ②助け合いチームの設置町内会数が増加することが、住民同士の支え合い体制の構築に繋がることから成果指標に設定(段階的に目標値を目指す) ③は、住民意識調査を成果指標に設定								

2. 施策の事業費

	26年度決算	27年度決算
施策事業費(千円)	66,408	50,034
人工数(業務量)	1,4675	1,3283

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成27年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①の住民意識調査では4.7%の上昇。②は同数。③の住民意識調査では0.7%の減少。ボランティア活動への参加は増加しているものの、住民同士の支え合い体制ができていると思う町民の割合は若干減少しており、成果は変わらないと考える。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	・本町における地域福祉を推進する中核的な団体である芽室町社会福祉協議会やボランティア活動の推進役であるボランティアセンターと共生型施設施設「なごみ」の活用促進、「ふまねっと運動」の普及など連携を強化し進めると共に、地域と行政をつなぐ重要な役割を担っている民生委員児童委員の欠員解消を図り地域の相談体制の充実を図る。 ・更に、今後は地域包括ケアシステムの構築にあたり、ボランティアによる介護予防サービスや生活支援について検討し、実施することで、地域の支え合い体制が構築されると考えられる。
(2) 施策の成果評価に対する平成27年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	民生委員児童委員活動支援事業 社会福祉協議会活動支援事業 芽室町ボランティアセンター運営支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・民生委員児童委員活動支援事業では、平成28年12月に改選を迎えるが、2地区の欠員補充には至らなかった。 ・社会福祉協議会活動支援事業、芽室町ボランティアセンター運営支援事業では、平成24年度に開設した共生型施設ふれあいサロン「なごみ」での世代間交流活動やボランティアセンター主催の「ふまねっと講座」が浸透してきたことにより、住民同士が支え合う体制の構築につながった。 ・生活保護事務において、最近では、生活保護申請に至らないが、飢えをしのごための相談、車上生活で収入がない相談もあり、十勝総合振興局や自立支援相談支援事業所との連携により対応した。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化、核家族化、関係の希薄化・孤立化などの社会情勢において、民生委員児童委員に求められる役割や支援が増加・高度化している。</li> <li>・地域福祉を推進する中核的な団体である芽室町社会福祉協議会やボランティア活動の推進役であるボランティアセンターの活動がますます重要になる。</li> <li>・自主防災組織の組織化、防災訓練の実施、個別支援計画の策定について担当課と協力する必要がある。</li> <li>・生活保護の相談内容が複雑となり、相談に時間を要する傾向にある。また、無年金者の保護相談のほか、他市町村からの転入者も増加傾向にある。加えて、雇用状況悪化の影響を受けての申請がさらに多くなることが考えられる。</li> </ul>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	なし。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員児童委員の担い手確保が大きな課題となっている。本町においても2地区の委員が欠員となっており、本年12月改選に向けて、町内会への説明など早期の対策を講じる。</li> <li>・住民同士の支え合い体制を構築する上で、第3期芽室町地域福祉計画において、特に、ボランティアセンターの機能強化、共生型施設ふれあいサロン「なごみ」の活用促進を掲げており、芽室町社会福祉協議会やボランティアセンターとの連携を強化する。</li> <li>・生活困窮者の相談内容が複雑・多様化しているため、より一層、十勝総合振興局や自立相談支援事業所との連携を強化する。</li> </ul>
---

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

		A	B	C	D	E
評価	成果指標が向上し、地域における支え合いの活動の推進が果たされており、施策として前進していると評価する。			○		
進捗結果				○		
今後の取組に対する意見	民生委員児童委員については、担い手の不足や高齢化しているので、負担軽減について検討が必要である。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

		A	B	C	D	E
評価	庁内評価と同じく前進したと評価する。			○		
進捗結果				○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>●たすけあいチームがきちんと助け合いできるような体制にしてほしい。</li> <li>●民生委員の欠員についての対応は11月には決定してほしい。</li> <li>●生活困窮や子供の貧困については関係課と連携し取り組んでほしい。</li> </ul>	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				